

# 営農情報

第94号平成23年7月6日発行

大豆栽培情報（7月号）

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

## 1 ほ場づくり

- 麦わらが、播種された大豆種子付近に多量にあると、乾燥による発芽ムラを起すことがあります。麦わらをすき込む際は、できるだけ均一に散らします。
- 最適な生育環境である弱酸性（pH6.0～6.5）の土壌づくりを行ってください。
- 土壌改良資材投入量の目安は、炭酸苦土石灰100kg/10aです。
- 播種前に雑草が多い場合、ラウンドアップマックスロードもしくはバスタ液剤を、200倍希釈で散布します。

## 2 播種

- 種子消毒は、キヒゲンを種子10kg当り100g混ぜます。
- 播種は、7月上旬から開始します。最適期は7月10～15日です。天候を見て、集落内で一斉播種を行いましょう。
- 適期播の場合、播種量は3～4kg/10a、株間は20～30cmとします。早播きの場合や、播種量が多い場合は、倒伏する可能性が高くなります。
- 降雨により、遅播（7月下旬頃）になる場合は、生育量を確保するため、播種量は6～8kg/10a、株間は15～10cmとします。
- 降雨翌日の播種が可能な部分浅耕播種を実施しましょう。

耕起後に降雨があるとしばらくほ場に入れなくなります。播種前の耕起を省略し、一工程で播種すると、降雨翌日の播種作業が可能となります。

部分浅耕播種技術は、雨の合間に播種が可能で、播種後の多雨、乾燥のどちらでも出芽が安定します。また、最下着莢高が高くなり、収穫ロスや汚損粒の低減にも有効です。（別紙参照）

## 3 雑草防除

使用時期	薬剤名	10a当り使用量	希釈水量
播種直後 ～発芽前 (雑草発生前)	クリアターン細粒剤F	4～5kg	—
	サターンバアロ粒剤	4～6kg	—
	クリアターン乳剤	500～800ml	100リットル
	サターンバアロ乳剤	600～800ml	100リットル

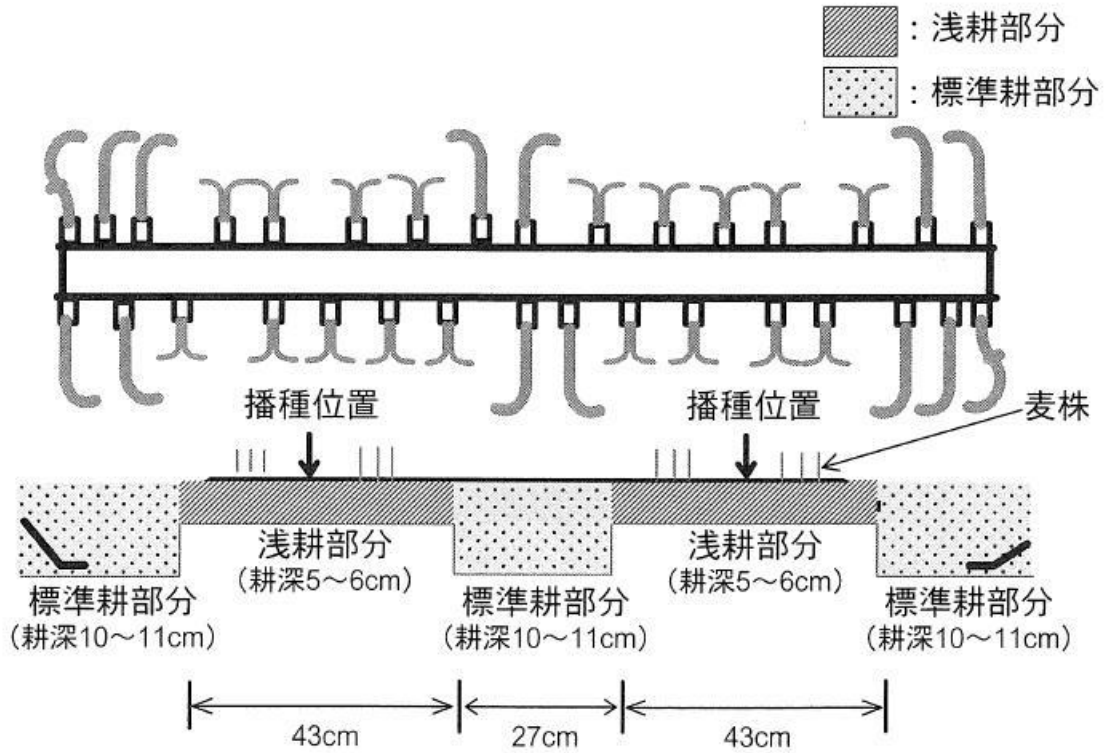
※土壌が乾燥している場合は、希釈水量を増やします。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**

## ～特集・部分浅耕播種技術について～

麦収穫後、麦うねをそのまま残し、爪を付け替えたロータリーで播種条を浅く、条間を標準の深さで耕起しながら播種する方法です。

この技術を用いる場合、ロータリーの播種条にあたる部分の爪をはずし、かわりに培土用カルチ爪2枚を背中合わせで装着します。



### 部分浅耕播種用改造ロータリ (ロータリ幅140cmの例)

#### ※留意点

- 前作の麦うね跡利用を前提としているので、大豆播種時には麦のうね幅と同じ幅のロータリーを使用するほうが良いです。
- 大豆播種前にラウンドアップマックスロードやバスタ液剤の散布を行います。
- 播種深度は4~5cmにします。